子どもの幸せのために

◎母子家庭の就労支援・・・

こどもの貧困への対策で一番、効果的とされる。区の関連事業で、母子家庭の母が、安定した職につくよう誘導できないだろうか。総合入札制度や指定管理者のプロポーザルなどで母子家庭支援を考慮する項目にいれられないか。

区　：どのように評価するかが難しい。

せの：私が障がい者就労支援に効果をあげている大阪のエルチャレンジ方式を紹介して、総合入札制度の導入を求めたのは、2006 年。その時、すでに大阪府では、母子家庭支援も評価項目に挙がっていた。日本では、女性の賃金は男性の半分、特に正社員になりにくい母子家庭の母の就労支援に取り組んでほしい !!

◎母子家庭の子どもたちに、文化芸術や自然体験などの豊かな経験を

貧困の連鎖を断ち切るには、人生の巾を広げる多様な経験が必要。荒川区自治総合研究所で調査研究をしているとはいえ、とりあえずやれることは初めてほしい。区内で開催されるコンサートなどの文化事業に母子を招待すること、招待するだけでなく、参加できるよう支援することなど、できるのではないか。

区：検討する

◎病後児保育にヘルパー派遣を

本来、子どもが病気の時くらい親が休める職場環境が望ましい。子どもにとって、病気の時は、知らない処へ預けられるより、うちでゆっくりすごせた方がいいはず。ヘルパー派遣も選択肢のひとつとして、あってもいいのではないか。

区：ひとり親家庭には派遣しているが、今以上の拡大は課題が多い。

◎ボール遊びのできる公園整備を

たとえば、生涯学習センターにネットを整備したらどうか。

区　：今でも団体使用がなければ自由に使えるはず。

せの：使っていいのなら広報したらどうか。中学生はお断りとされている。

◎障がい児教育の充実を

情緒障がい・難聴言語障がいの教室（対象は普通学級在籍児童）に通いたいという特別支援学級の保護者の要望がある。検討できないか。

区　：特別支援学級の方がより手厚い支援を受けられる。そのような要望は聞いていない。

せの：私も聞いているし、たんぽぽセンターにも寄せられている。たんぽぽセンターと連携して区民の要望を聞くべきである。特別支援学級の指導方法にも課題があるのではないか

子どもが外で群れ遊ぶ経験の欠如が、子どもの危機をもたらしている。

我が国の子どもが近年、学力･体力･運動能力の低下、肥満の増加、生活習慣病の増加、コミュニケーション能力の低下、意欲や向上心の低下、不登校・引きこもりの増加、孤独感、いじめ、自殺等の極めて危機的な状況にある。

我が国では子どもの遊びや運動のための空間が極めて少なく、子どもの自由な行動が制限されている。生活の身近なところに、居場所、遊び場、広場、自然体験などの多様な体験ができる場を再整備する必要がある。

日本学術会議の 2008 年の提言から

子育て・学校・公園・道路・環境などなど、区政のすべての分野で、荒川区として、**子どもが外で群れ遊ぶ経験**を保障する努力をしてほしい。